

「パーキンソン病」とは

パーキンソン病は神経難病の一つで、50歳代後半から60歳代で発症することが多く、日本では10万人に100～180人の頻度です。65歳以上では100人に約1人いるので、決して珍しい病気ではありません。

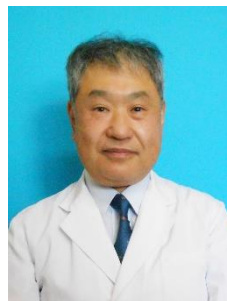
パーキンソン病は脳の下にある中脳の黒質ドーパミン神経細胞が減少して起こります。ドーパミン神経細胞が減少する原因としてはドーパミン神経細胞の中にアルファ-シヌクレインというタンパク質が凝集して蓄積し、ドーパミン神経細胞が減少すると考えられています。

このアルファ-シヌクレインが増えないようにする治療法は研究段階のため、現在の治療はドーパミン神経細胞が減少するため少なくなったドーパミンを補充する治療が主です。

パーキンソン症状が見られるとパーキンソン症候群と言われますが、その全てがパーキンソン病ではありません。パーキンソン症候群の一部がパーキンソン病です。したがって、パーキンソン症状があるからと言って即パーキンソン病の治療を始める訳ではありません。パーキンソン病以外の原因である薬の副作用の可能性を除外して、その他の疾患を除外する必要があります。まずは頭部MRIまたはCTで脳血管障害や正常圧水頭症を除外します。DATシンチやMIBG心筋シンチを組み合わせるとパーキンソン病に合致することを確認した上で、ドーパミンを補充することで症状が改善することが確認できればパーキンソン病と診断できます。

パーキンソン病はゆっくりと進行する病気ですので、初期には気づかれにくいですが、手足の震えや小刻み歩行だけでなく、最近、「表情が乏しくなった・笑わなくなった」というような仮面様顔貌や、「字を書いているとだんだん小さな字になっていく」というような小字症で始まることもあります。これらの症状が気になる方は、かかりつけの医師に相談して脳神経内科を受診して下さい。

老化と同じようにドーパミン神経細胞が減るのを止めることはできませんが、いろいろな治療法を組み合わせ、少しでも長く自立した生活が送れるようにするためにはパーキンソン病を正しく診断することが大事です。



脳神経内科科長
廣田 伸之

パーキンソン症候群の原因

パーキンソン病

薬剤性

脳血管障害

正常圧水頭症

多系統萎縮症

進行性核上性麻痺

など

パーキンソン病の4大症状(パーキンソン症状)

手足がふるえる(振戦)

筋肉がこわばる(筋固縮・筋強剛)

動きが遅くなる(無動・寡動)

バランスがとりづらくなる(姿勢反射障害)



尿失禁について

尿失禁とは、自分の意思とは関係なく尿が漏れてしまうことです。

尿失禁でお困りの方は多いのではないのでしょうか。

尿失禁といっても様々な症状があり、大きく別けると4つの種類があります。

① 腹圧性尿失禁

咳やくしゃみをしたとき、笑ったとき、重い物を持ち上げたときなど、お腹に力が入ったときに尿が漏れてしまいます。

② 切迫性尿失禁

急に尿がしたくなり、我慢ができずに漏れてしまいます。

③ 溢流性（いつりゅうせい）尿失禁

自分で尿を出したいのに出せない、でも尿が少しずつ漏れ出てしまいます。

④ 機能性尿失禁

排尿機能は正常にもかかわらず、身体運動機能の低下や認知機能が原因で起こります。

クシュン



尿失禁を治療するためには「どの種類の尿失禁なのか」を知ることが大切です。尿失禁の症状や原因に応じた治療が必要です。治療することで症状は改善していきます。尿失禁でお困りの方は、当院泌尿器科にご相談下さい。

皮膚・排泄ケア認定看護師 近藤美樹

材料〈2人分〉

- ・かつお(刺身用) 10枚
- ・大葉 5枚
- ・みょうが 1個

＼ ご飯のお供に ／

かつおの薬味漬け



④

- みりん 大さじ 2 醬
- 油 大さじ 2
- すりごま 大さじ 2
- にんにくチューブ 5cm



作り方

- ① 器に④を入れてよく混ぜ、かつおを入れる。
- ② 冷蔵庫で 30 分程おいて味をなじませる。
- ③ 大葉、みょうがは千切りにし、水洗いして水気を絞る。
- ④ かつおを盛り付け、つけ汁をかけ大葉、みょうがを散らせば完成。

初 鰹：4-6 月に穫れる。
脂が少なく、さっぱりとした味高タンパク低脂質！

戻り鰹：8-9 月に穫れ、脂が豊富にのっているのが特徴

栄養科 岡本夏海

枚方公済病院

理念 医療への貢献と奉仕

基本方針

- 地域における中核病院として、快適な療養環境と高度な医療を提供する。
- 患者さんの立場を尊重した合理的かつ安全な医療を行う。
- 病院は働き甲斐のある職場を整備し、職員は知識と技術の研鑽に励む。
- 強く、優しく、頼れる病院を目指す。